

安威川流域のいろんな場所で、茨木産の美味しい農作物に出会えます。

茨木で育った農作物が味わえるMAP

北部に広がる里山をはじめ、茨木各地の農家さんが丹精込めて育てた農作物たち。茨木に暮らしていても、なかなか味わう機会が少ないのではないでしょうか。今号の安威川ニュースでは、茨木産の農作物が気軽に買い物できたり、地元食材にこだわった料理を提供しているお店を紹介します。身近で採れる新鮮な食材を味わいながら、茨木の農業のことや食文化について再発見してください。



茨木北部地域の新鮮な野菜が日替わりで楽しめます。

茨木市協力のもと茨木ショッピングタウンでは、「いばきたマルシェ」を開催。茨木北部の農家さんが丹精込めて育てた新鮮な野菜を販売しています。見山の郷からは、地元野菜の加工食品、銭原地区は、昼夜の寒暖差が激しい標高450mの立地を活かして栽培された風味豊かな「高原野菜」と「銭原の棚田米」、忍頂寺地区の農家さんは、冬はオレンジ白菜、夏は四角豆やミニトマト「アイコ」など、スーパーで見かけることが少ないたくさんの品種を揃えています。各地区的野菜を日替わりでお楽しみください。

7 いばきたマルシェ（茨木ショッピングタウン）

大阪府茨木市西駅前町 4 茨木ショッピングタウン 1 階 mail: shoptown@ibarakiekimae.com

第 1・3 月曜 10:00～ 忍頂寺の河野さん (Farm 河野屋) の野菜
第 2・4 火曜 10:00～ 「夢ファーム銭原」(銭原自治会) の高原野菜
※開催スケジュールは「茨木駅前マルシェ ニュース」でもお知らせします。http://marche.ibarakiekimae.com/news/



採れたて高原野菜と手作りジェラート。

見山地区の標高は450mあり、寒暖の差が激しい立地を活かした高原野菜は、大きき味の濃さも抜群で、非常に鮮度が高く旨味があると評判。市内だけでなく市外からも、毎日たくさんの方が買いに来られます。また地元の旬の食材を活かした手作りジェラートや、鮮やかな色合いが特徴の見山特産の赤紫蘇を使った、「赤紫蘇サイダー」も大人気。店内の飲食スペースでは、「見山の郷de愛定食」をはじめ食事メニューも充実しています。

8 de 愛・ほっこり見山の郷

大阪府茨木市大字長谷 1131
TEL: 072-649-3328
FAX: 072-649-3348
営業時間 9:00～17:00
(11月～2月 16:00まで)
定休日: 火曜日



茨木市民に長く愛される地玉子。

創業60年目を迎える卵専門店「土岐鶏卵」は、茨木市内の人なら誰でも知っているこだわりの地玉子を販売。17年前に、市内北部にある清水養鶏場と一緒に作りはじめ、吟味した餌と天然水を与えることで、卵の旨味を引き出し、小ぶりながらも旨味が濃くて弾力があり、甘みのある卵が完成しました。その味を求めて市内だけでなく約200店舗からの注文が寄せられる信頼の高さ。旨味の旨味が増す半熟の温泉卵にして食べるのが店主のおすすめです。

9 土岐鶏卵（ときけいらん）

大阪府茨木市元町 6-36
TEL: 072-622-6126
営業時間 10:00～19:00、祝日 10:00～16:00
定休日 日曜日



茨木の「農」を伝える交流の場。

茨木市内で170軒もの農家さんが登録されている「みしま館」。毎日、季節に応じた旬の野菜が販売されていて、開店前から大勢のお客さんが列をつくって待っています。店内には、その日に入荷した農家さんの名札と写真を掲示して生産者を明確に。また、たくさんの人に茨木の農業や食材を知ってもらうため、地元で採れたお芋を使った「芋煮会」を開くなど、農家とお客さんをつなぐ、さまざまな交流の場をつくっています。

10 JA 茨木市農産物直売所みしま館

大阪府茨木市庄 2-26-22
TEL: 072-645-7100
営業時間 9:30～18:00
定休日 毎週水曜日、年末年始
※毎週金曜日にJA茨木市南支店で出張販売を実施



コンビニ前で地元野菜の朝市。

茨木市大池のファミリーマーケットでは、地域貢献をテーマに店舗敷地内で朝市を行っています。ここでは、見山の郷からの新鮮な直送野菜や加工品を提供しているチキチキファームの伊東さんと、地元野菜でぬか漬けを作っているぬか太郎さんのお二人が出店。大池の町は、食育について意識の高い主婦の方が多く、安心で安全、新鮮な地元野菜を求めて、開店してから1時間もたたないうちに完売するほど大人気です。

11 ファミリーマーケット茨木大池一丁目店 野菜直売

大阪府茨木市大池 1-4-1
TEL: 090-9058-4246 (チキチキファーム: 伊東)
営業時間 各日水曜日9:00～
※売切次第販売終了



農家さんから野菜のイロハを教わる。

茨木北部から南部にかけて、6つの地域で朝市・青空市が開催され、毎週、各地域の農家さんが旬の野菜を直売しています。朝いちばんの新鮮で美味しい野菜を求めて、販売前には市内外から訪れるお客さんの行列ができるほど。気さくで優しい農家さんから、野菜の特徴や料理の仕方など、野菜のイロハを教えてもらえるのがうれしい。

1 銭原青空市

美味しい高原野菜や青空焼き(たご焼き風)をご用意しています。畑田の風景を楽しみながら、気軽に訪ねてください。
阪急バス銭原バス停前
TEL: 072-649-2400 (JA 北支店)
毎週日曜日 7:00～
※冬季 午前 7:30～

3 あいさい市

業もの野菜の他、清水養鶏場の卵や自家製の梅干しも販売しています。のどかな田園風景が広がる安威に、ぜひお越しください。
安威 ATM コーナー
TEL: 072-643-0033 (JA 中支店)
月 2 回日曜日随時 8:00～

5 郡コミセン朝市

「なんとなく」からはじめて20年。ご近所さんで大評判の朝市となりました。気の合う仲間たちと一緒に販売しています。
郡コミュニティセンター内
TEL: 072-627-8800 (JA 中央支店)
毎週土曜日 8:15～

2 泉原青空市

茨木北部は、空気がとても美味しく、新鮮な野菜が採れます。お付き合いの長いお客さんから新規の方も大歓迎です。
JA 北支店前
TEL: 072-649-2400 (JA 北支店)
毎週土曜日 8:00～

4 福井がジャイモの会

朝市をはじめ20年、長くお付き合いしていただいているお客さんのために、丹精込めて育てた野菜を販売しています。
JA 中支店前
TEL: 072-643-0033 (JA 中支店)
毎週日曜日 8:00～

6 春日青空市

茨木の市街地で開かれる朝市だから、見山の郷に足を運んでください。夏になると赤紫蘇も販売しています。
JA 本店(中央支店) 駐車場
TEL: 072-627-8800 (JA 中央支店)
毎月第3水曜日 8:00～



地元の食材を使った里山ランチ。

若い世代が少なくなって、寂しくなる地域に「人が集まる場所をつくりたい」とはじめた古民家カフェ「cafeらん」。地元食材を使った「おからの里山ランチ」は、その日に採れた旬の野菜を味わえます。食後のコーヒーには、お隣の「たらば珈琲焙煎場」でつくった「らんブレンドコーヒー」。山のなかで気持ちよく飲める清涼感です。店主こだわりの1枚板の分厚いダイニングテーブルで、田舎に帰った気持ちでゆっくりお過ごしください。

12 cafe らん

大阪府茨木市忍頂寺 164-5
TEL: 072-665-7839
営業時間 11:00～15:00
定休日 火曜日・水曜日



茨木の土地柄や人に魅せられて。

「むばらけ」は「いばらき」の音の替換。山とまちが近い茨木の土地柄や人に魅せられて、放浪の旅好きな店主が、茨木にとどまり、長くお店を続けています。地元で採れた食材とアジア料理をミックスさせたメニューを提供するだけでなく、地元の農家さんと飲食店をつなぐための活動を行い、店主自身も農作業に出かけます。おすすめは、清版テラスの卵を使ったナシコブレに、忍頂寺でとれた空心地菜の炒めもの。お米は、見山、銭原、寺田町、千提寺の「ひのひかり」や「きぬひかり」を使用しています。

13 アジアの食堂 ムバラケ

大阪府茨木市西中条町 5-20
TEL: 072-632-5124
営業時間 12:00～14:30、18:00～22:30
定休日 不定休



茨木の旬がわかる自然食ランチ。

新鮮な旬の食材を通して、地産地消の暮らしを伝える「BONOCafe」。無農薬・減農薬で自家栽培された野菜の自然食メニューや手作りデザートは、朝一番に届いた食材で作られます。四季の変化を味わえるオースメの定食は、水と空気が綺麗な茨木市車作・泉原で丁寧に育てられた10種類以上の採れたて野菜と「きぬひかり一等米」、農林水産大臣賞をとった安元の清水養鶏場の卵と全てが茨木産。子どもたちの食育にも嬉しいお店です。

14 BONOCafe

茨木市水尾 2-14-35
TEL: 072-632-5124
営業時間 11:00～17:00
定休日 日曜日・祝日



地産地消のジビエ料理を味わう。

和食をメインに、日本酒や焼酎を多数取りそろえる、創業20年目の料理屋「はなせ」。5年前から地元の猟友会が狩猟した鹿を店主自らが生剥き、ジビエ料理を提供しています。また、茨木市内で地産地消のジビエ料理を広めるために地元飲食店に声をかけ、徐々に取り扱うお店も増えてきているとか。調理される鹿肉は新鮮なうちに絞って冷凍されるので、臭みもありません。栄養価が高く、高たんぱく・低カロリーの食材だから女性客にも人気。茨木の美味しい鹿肉をぜひ味わってください。

15 料理屋 はなせ

大阪府茨木市上中条 1-3-18
TEL: 072-620-7724
営業時間 11:30～14:30 (L.O 13:30)、17:30～22:30 (L.O 21:30)
定休日 毎週水曜日(月一回だけ・連休)



お芋の甘味を活かした「宙いもと紫いものフルーツロール」

粉を使わない、おいもとフルーツだけのケーキ。おいもはケ(普段の生活)の食べ物ですが、大切な時間を過ごすハレ(特別な儀礼や祭)の日にも使えます。

<材料 直径8cm×長さ15cmのもの1本分>

宙いも・・・400g (フリリング)
きび砂糖・・・大さじ4
塩・・・少々
りんご・・・小1/2個
ハチミツ・・・大さじ1
干しあんず・・・50g
干しいちじく・・・30g

紫いも・・・250g
きび砂糖・・・大さじ2
塩・・・少々



災害時保存食の乾パンをアレンジした「宙いも乾パンチャンプルー」

保存食の乾パンを水でふやかして、料理につかいました。災害時に非常食としても利用される乾パンと防災食品でもあるさつまいもを合わせたアイデアレシピです。



さつまいもを土台の生地にした「宙いもピザ」

ピザ生地の代わりにさつまいもを使用した簡単レシピ。フライパンひとつで調理できます。チーズやベーコンの塩気がさつまいもの甘味がぐっと引き立ちます。

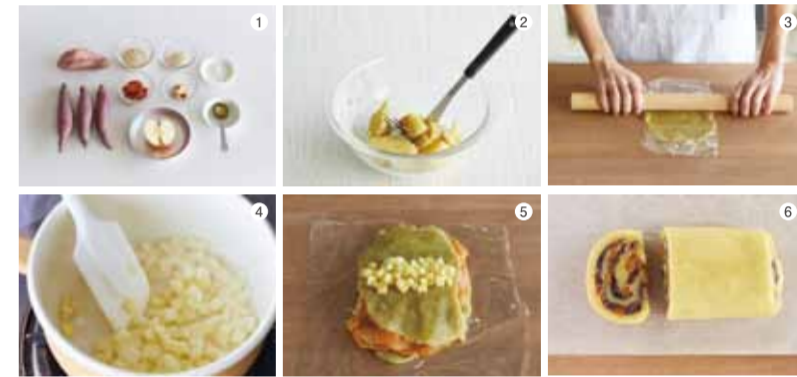
<調味料>
宙いも・・・30g ビーン・・・10g
ケチ・・・50g かつお節・・・2.5g
玉ねぎ・・・50g ビザ用チーズ・・・30g
にんじん・・・25g サラダ油・・・小さじ1
卵・・・2個 (入交先生オースメの土岐鶏卵の地玉子を使用)

<材料 2人分>
宙いも・・・120g ベーコン・・・1枚(20g)
塩・・・少々 ふなしめじ・・・1/2パック(50g)
オリーブオイル・・・小さじ2 ビザ用チーズ・・・30g
玉ねぎ・・・50g パレル(あれば)・・・少々

※サツマイモは、カリウムやカルシウムなどミネラルやビタミンを多く含み、栄養バランスが良い完全食品です。食物繊維も豊富で保存も効きます。

「宙いもプロジェクト」

宙いもプロジェクトは、茨木で採れたサツマイモで茨木の名産品を作る、農家とお店と市民が一体となって進める「町おこし」プロジェクト。品種選抜初期段階から茨木高等学校の学生が関わっています。平成23年度にははじまり、今年で6年目。追手門学院大学、梅花女子大学、大阪成蹊大学の参画、摂南大学の協力に続き、平成27年度には立命館大学とのコラボも。茨木市と連携して、災害時の防災食品としても推奨しています。



作り方(調理時間約1時間)

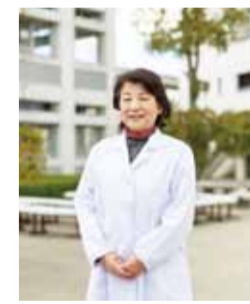
1. いもは3～4cm幅の輪切りにし、厚めに皮をむく。
2. 宙いもは、水にさらしたあと湯がいて粉ふきいもにしてからすりつぶし、きび砂糖と塩を加えてよく混ぜる。紫いもも同様にする(水分が多い場合は加熱し、練りながら水分を飛ばす)
3. (1.)の生地で15cm角×厚さ3mmのシートを5枚つくる。宙いもは3等分、紫いもは2等分に分け、そのうち一つをラップにのせ、手である程度平たし。上にラップをかぶせて麺棒などで広げる。残りも同様にしておく。フリリングをつくる。りんごは皮をむき、1cm角に切って鍋に入れ、ハチミツを加えて弱火にかけ、煮詰めておく。干しあんずと干しいちじくは粗みじん切りにし、3等分しておく。
4. (3.)のラップを外し、新しいラップの上に、宙いもシート→干し果物散らす→紫いもシート→干し果物散らすの順で4枚シートを重ね、(4.)の煮りんごを中央にのせて芯としてラップごと巻き、手前と奥を合わせる。
5. クッキングシートに残りの宙いもシートをのせ、(5.)を置いてクッキングシートごとくるみ、形を整える。冷蔵庫で10～20分ほど冷やしてから、2cm幅に切り分ける。

茨木産の「宙いも」で料理をつくろう!

レシピ: 入交享子

地産地消を通じて、社会や人とのつながりについて学んでほしい。

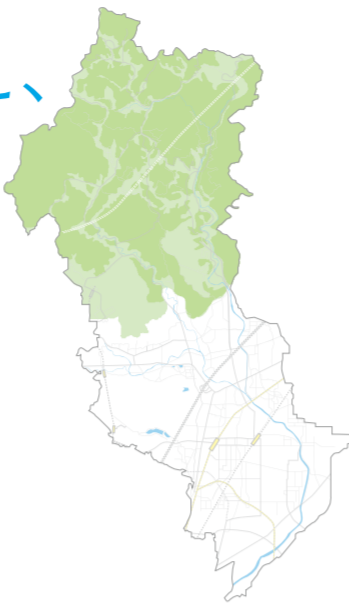
学校の授業では、どんな問題にも正しい答えが用意されています。だけど、社会に出ると解けない問題がたくさんあって「こんなはずじゃなかった」と気付くわけです。自然界にも正解がありません。思うようにならないことには、自分で答えを導き出して解決していくしかないですね。幼い頃から自然に接していると、それが当たり前のことだという自覚が育まれていきます。食卓に並ぶ野菜が近くの農地で作られているとしたら、誰がどのように作っているのかを考え始める。手に入らないからといって何処で売っているかを調べるのではなく、手に入らない理由を知ろうとする。そうやって、自分の土地や気候について学んだり、地元の農家さんを思いやる気持ちにつながっていきます。温室で育てられたものに比べて、露地で採れる旬の野菜には栄養があって美味しいけれど、手に入らないことだってあります。欲しいものを諦めること、耐えることも含めて地産地消なんですね。学生たちと取組んでいる「宙いもプロジェクト」(※)では、サツマイモの苗植えから収穫、そして、必ず葉・茎柄・皮も全部料理をし、一緒に食するところまでやります。自分たちが育てた農作物を自分たちで食べるためには、さまざまな知恵と工夫が必要となってきます。「農」と「食」を通じて、自然や社会のしくみに思いを巡らしたり、身体や心の健康に関する考察を深めていく。そのような機会を生み出すことによって、茨木の価値を再発見できるのではないかと考えています。



入交 享子
Irimajiri Kyoko
大阪府立 茨木高等学校 教諭

平成11年大阪府立茨木高等学校 兼任。平成18年大阪府指導教諭(女性第1号)に任命される。平成19年文部科学大臣優秀教員表彰。「開かれた学校づくり～地域に根差した教育～」を指し、地域はもちろんNPO・公的機関・大学・企業などと連携しコラボ授業を展開する。「宙いもプロジェクト」(いばらき元気隊)「子育て食育実行委員会」等のプロジェクト主要メンバーとして関わりながら、茨木のまちづくりや情報発信に務めている。

美しい自然や里山の暮らし、地域文化を支え、茨木北部の新しい未来図を描いていく。



茨木ふるさとの森林づくり隊



会を発足した当時は、活動地もない素人の集まりでしたが、24年目を迎え、地主さんとの交流を深めながら、約8ヶ所で私有林の手入れを今では任されています。私たちが人工林の間伐などを活動の主軸にしているのは、林業従事者の高齢化、後継者不足による山の荒廃が、人工林ほど顕著だからです。一方では、メンバー自身の高齢化も進み、重労働の間伐などを、いかに継続させることができるかが課題となっています。現在、大阪府立大学工業高等専門学校と学生たちと間伐材を活用するプロジェクトに協力していますが、彼らと交流することにより、新しい「山との関わり方」を発見できるのではないかと期待しています。今後、取組んでいきたいことは、できるだけ人の手がかからない天然林に選んでいくという森づくり。現状では、間伐が遅れているので、まずは間伐し、光を入れることで下草を育て、雨水が染み込むようにし、山崩れを起こさなくする。そのような「山の力」を回復させていながら、天然にちかい森を増やしていきたいと考えています。

鉢伏山森づくりの会



私たちが活動している鉢伏山は岩阪地域の共有林です。高度成長以前は、里山の暮らしに必要な薪拾いや炭焼きがおこなわれていましたが、近年では山に入る人がいなくなり、雑木・雑草が生い茂る荒地になってしまいました。平成19年に彩都西地区で「大阪府植樹祭」が開催されたことを契機に、里山景観の保全の必要性を感じ、岩阪地域と彩都の住民有志が、茨木市、大阪府、里山サポートネット・茨木の支援を受けて「鉢伏山森づくりの会」を結成。平成22年から山道と森林の整備をはじめました。鉢伏山は自然歩道を散策するハイカーも多く、そういった方々の為にも山の景観を維持することがやりがいにもつながっています。メンバーの高齢化とともに人手不足の課題はありますが、平成29年からNPO法人国際学生ボランティア協会IVUSAの大阪茨木クラブから立命館大学の学生に参加してもらうなど、あらたな保全活動のカタチを模索し、山の価値を創出していきなりたいと思います。

車作里山倶楽部



「車作里山倶楽部」は、安威川ダム建設に伴い平成13年に地元自治会、市民団体、大阪みどりのトラスト協会、大阪府、茨木市からなる「車作の森 保全協議会」の設立をきっかけに、平成17年に市民ボランティアと地区住民によって設立されました。森林保全活動を続ける中で、覆われていたネザサやツルを刈取り、明るくなった藤谷地区では、希少種とされるキツネノカミソリ（ヒガンバナ科）の群生が現れ、毎年、花が咲く時期に観察会を開き、市民の皆さんに楽しんで頂いていましたが、平成24年に、鹿の食害を受け、キツネノカミソリの群生地がほぼ壊滅。再生保護活動に力をいれていますが、厳しい状況が続いています。限られた区域だけでもキツネノカミソリが咲く状態にしたいと考えています。車作の森は、近隣に竜仙の滝や権内水路、東海自然歩道などもある環境です。今後、市民の森林セラピーの場所に提供できたらと考えています。そのためにも、団体の高齢化が進むなか、新しいボランティアの有り方、保全活動が安全にできる体制づくりなどを模索し続けていきます。

茨木里山を守る会



「茨木里山を守る会」は、平成17年から始まった茨木市森林サポーター養成講座の一期生が平成18年に立ち上げた団体です。今では会員数105名の大阪府下最大クラスの森林ボランティア団体になりました。活動場所は主に千提寺地区周辺です。隠れキリシタンの郷の景観保全、新名神高速道路開通に伴う千提寺回遊路の整備など、地元と緊密に連携し、信頼関係を築きながら活動の輪を広げています。最近では、地元の方が養成講座を受講され、自分の土地を自分で整備したいという方や、働きながら土日に参加される若い世代の方もおられます。木を伐採した後の明るい森を見た時の感動や、地元の人たちが喜んでる姿に地域貢献の実感を得られているようです。また、私たちは一般市民団体への啓発活動にも力を入れ、専用の実習林にて延べ250名の間伐体験指導や、大阪府アドプトフォレスト活動の里山整備支援も行っています。今後も、他地域のモデルケースとなれる団体を目指していきたいと考えています。

豊かな自然環境を守るためにボランティアの方々が、森林の保全活動を続けています。

茨木市の北部には、美しい大自然が広がっています。しかし、林業従事者の減少や後継者不足といった深刻な問題を抱え、森林の維持や保全をしていくことが困難となっています。このような状況において「豊かな環境を次世代に残していきたい」という想いのもと、たくさんの地元ボランティアの方々が森林の保全活動を続けています。



茨木市里山センター

里山・森林整備に取組む地元ボランティア団体の活動拠点として利用されている茨木市里山センターは、里山・里地保全や環境教育を行うボランティア団体で構成される「里山サポートネット・茨木」が管理・運営を担い、市民の方々の里山保全活動への関心を高め、茨木の身近な自然に親しんでもらうことを目的としています。四季のイベントのほか、木材加工品の販売や工作指導、木工機械の安全講習会、炭焼体験講座などを行っています。

大阪府茨木市泉原2-2
TEL:072-646-7531
営業時間 9:00～17:00
定休日 毎週火曜日(祝日の場合翌営業日)



茨木の森林保全を確かなものとするために、学生と地域の新たな関係づくりにチャレンジしていく。

大阪府大高専が「間伐材活用による森林保全プロジェクト」の協働に参画して三年目になります。ここでは、単にデザインやものづくりのアウトプット面だけではなく、学生が森林に入り、間伐作業や製材の現場に立ち会い、身体を動かしながら自然環境と触れ合う機会へとつなげています。森林ボランティアの方々とともに働き、交流を深めていくプロセスを通じて、学生が自発的に森林保全の課題に気づき、環境問題への認識を深めていくことに、とても大きな意味があると考えています。林業従事者が減少していく中で、人工林の保全、あるいは天然林へと選んでいくためには、長い時間と多くの人手が必要とされます。そのため、都市で暮らす若者と地域の方々、しっかりと向かい合い、一緒になって課題解決に取り組んでいくための関係づくりが大切です。継続的に活動を実践し、森林保全における新しいしくみへと発展させていきたいと思っています。



「間伐材活用による森林保全プロジェクト」では、大阪府大高専の学生が、森林ボランティアの方々と一緒に間伐作業・製材をおこない、生徒の卒業制作、安威川フェスティバルに設置されるテーブルや椅子づくりへとつなげています。活動を一過性のものとせず、学生と地域の方々の継続的な協働体制を築き、森林保全の新しいしくみづくりを目指しています。

山と街を一つにするためのダイナミックな発想力と実践力を培っていくことが重要。

茨木市は、北部の山間地と南部の市街地がちょうど半分に分かれています。私が2年前に立ち上げた「山と、まち」というプロジェクトは、分断されたそれぞれの場所＝「点」を「線」で結び、さらに「面」へと拡げ、山と街の境界を取り払ってカルチャーにつながるムーブメントを起こすための、オルタナティブな活動体です。市街地から20分も車を走らせれば豊かな里山があり、そこで営む人々の暮らしに触れられる。あるいは、山間地から大阪の中心部まで1時間という距離だから「都市で働きながら山で暮らす」ということも実現可能です。双方を鳥瞰で捉え、様々な角度から可能性を検証し、実験・実践を繰り返していく。そのためには、多様な人たちが能動的に集まり、活発なコミュニケーションを行う「場」が維持される事が大切です。人と人、アイデアとアイデアを紡いでいながら、他にはないオリジナルな地域文化を生み出していきたいと考えています。



「山と、まち」では、移動式Tinyハウスによって山間部の住宅問題を考えたり、テントサウナを体験して災害時をイメージするといった、さまざまなケーススタディでクリエイティブに問題を解決する方法を提案しています。また、安威川ダムファンづくり会による「間伐材活用による森林保全プロジェクト」や、サイクリングによって地域価値を体験する「いばらきの山とまちをつなぐ」の企画立案に参画するなど、独自のムーブメント創出に向けて実践を続けています。

茨木市北部の課題解決に向けて、さまざまな人が交流するプラットフォームをつくる。

茨木市は、面積の約半分が山間地にありますが、市街地に対する人口比が約1%という「深刻な過疎化」が進んでいます。一方、車で2、30分の距離を北部に入っていくと、豊かな自然の景観をはじめ、歴史・文化、新鮮な農作物といった、たいへん貴重な資源が数多くあります。このような現状は、多くの市民の方たちに認知されていません。茨木市北部整備推進課では、これらの課題と可能性をオープンにし、共有を目的としたプラットフォームづくりを推進しています。行政と地元の方々、識者やクリエイターなどが自由にアイデアや意見を出し合い、実践と可視化のプロセスを積み重ねることで、さらに共感の輪を広げていく。さまざまな人たちが茨木北部に関わりを持ち、市街地と山間地をつなぐためのプラットフォームとして機能させ、みんなで魅力発信に向かいながら、一緒になって茨木の「新しい価値」を創出していきなりたいと考えています。



「いばらきの山とまちをつなぐ」は、自転車という身近なアクセス方法で、市街地と山間地の交流を生み出すためのアプローチ。また、JR茨木駅前にある茨木ショッピングタウンにて、北部で採れた新鮮な農産物を市街地の方々へ提供する「いばきたマルシェ」を展開するなど、プラットフォームづくりによる茨木北部の課題解決に取り組んでいます。



鯉坂 誠之 Ajsaka Shigeyuki

大阪府立大学 工業高等専門学校 准教授

大阪府大高専では総合工学システム学科に所属し、主に土木・建築の立場から「ものづくり」を行う都市環境コースに在籍。茨木市では森林保全プロジェクトの原に生じる間伐材を活用したプロダクトや建築空間を創出する活動を実践。和泉市では、横尾山における「笑働の森」プロジェクト、寝屋川市では、点野地区における水辺空間の再生プロジェクトなどで学生が地域の方々と関わりながら活動を展開中。



河上 友信 Kawakami Tomonobu

空間デザイナー 河上友信空間設計事務所 代表

オルタナティブスペース「GLAN FABRIQUE」を拠点とした、デザイン、アート、ディレクション、社会活動、など多岐にわたる活動は全て「空間デザイン」の領域、あるいはその延長線として行われている。都会からは少し距離をおいた「暮らしのすぐそば」にあるこの場所ので、人、空間、時間、そしてその関係性を考え続けている。「山と、まち」発起人。



岡田 直司

茨木市 都市整備部 北部整備推進課

平成5年茨木市役所に入庁。都市計画・企画業務、シニアプロモーション業務等に従事し、平成28年度より北部整備推進課に所属。茨木市内における住民主体のまちづくりの実践に向け、業務内だけでなく、業務外においても、市中心市街地の事業者や住民によるまちづくり活動への参画や、大学等の多様な主体との連携支援などに積極的に取り組む。



【安威川フェスティバル 2017 レポート】

周辺地域・茨木の新たな魅力に出会える場 「安威川フェスティバル 2017」が開催されました。

平成 29 年 11 月 12 日、4 度目となる安威川ダムファンづくり会主催の「安威川フェスティバル 2017」は、茨木市の「桑原ふれあい運動広場」「桑原自治会館」で開催されました。清々しい秋晴れのもと、約 1,400 名の方にご来場いただき、大盛況のフェスティバルとなりました。「次世代へつなぐ出会いの場」をコンセプトとし、安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを考え、実践する人たちが会おう交流の場を目指して、市街地と山間地の活動が一同に会しました。前回同様、「自然に学ぶ」「文化に学ぶ」「ダムに学ぶ」「つなぐプログラム」という 4 つの方向性にもとづいて、50 近くのプログラムを実施し、子どもから大人まで楽しめる、多彩なプログラムを展開することができました。「自然に学ぶ」は、安威川に生息するカメの生態展示や昆虫標本などの環境教育プログラムのほか、「丸太切り体験」「どんぐりポットづくり」などを実施。また、安威川上流漁業協同組合による「アマゴのつかみ捕り」は子どもたちに大人気でした。「文化に学ぶ」は、食育をテーマとした「踊ってつくる! ベットボルピザ」や「見山の郷」「いばらきの秋の収穫祭」「車作ぜんざい」「大岩いも掘り園」「生保コメ米・サイ菜クラブ」など、お米や野菜の販売等を通じて、地元食材を楽しむプログラムが実現しました。また、「お馬ばかばこ」では、茨木市上音羽の「ばかばこ広場」からポニーがやってきて、親子で餌をあげたり、お散歩をして、お馬とのふれあいを楽しみました。「ダムに学ぶ」は、ダム建設の現場で活躍する大型重機に試乗したり、実際の工事現場をバスでまわされる「ダム工事現場体験ツアー」では、間近で見る重機の大きさに大人も子どもも大興奮。家族連れのみなさんにも楽しんでもらい、ダム建設の状況をお伝えすることができました。「つなぐプログラム」は、地元 6 地区のスタンプを集めて景品がもらえる「スタンプラリー」、大阪府立大学工業高等専門学校の学生と協働でつかった間伐材のテーブル・椅子を会場に設置する「間伐材プロジェクト」や、サイクリングによって山間地と市街地をつなぐプロジェクトから生まれた冊子「いばらきの山とまちをつなぐ」の配布と「サイクリストミーティング」を行いました。さらに、多数の地元企業や飲食店が参加され、一緒になってフェスを盛り上げることができました。4 年目を迎えて、リピーターの方々や口コミで集まっていたいただいた方が増え、安威川フェスティバルが、みなさんに広く認知され、地元のお祭りとして定着しはじめたのではないかと実感しています。今後に向けて、さらに楽しんでいただけるフェスティバルとなるよう創意工夫を続けていきたいと思います。

【安威川ダムファンづくり会】
↓
安威川フェスティバルのコンセプト
次世代へつなぐ出会いの場
自然に学ぶ 文化に学ぶ ダムに学ぶ つなぐプログラム



安威川フェスティバルを機会として、さまざまな活動が、さらに大きく前進していきます。



間伐材プロジェクト

会場内に設営されたテーブルや椅子は、地元地域と学生によって制作されました。

「間伐材活用による森林保全プロジェクト」では、茨木の森林ボランティアと大阪府立大学工業高等専門学校の協働によって制作されたテーブルや椅子を会場内に設営し、来場者のおもてなしをしました。茨木北部の豊かな自然環境を守るために、地元地域と学生が一緒になって、間伐作業・製材・家具作りを実践し、森林保全活動における「持続可能な循環」の創出を目指しています。



サイクリストミーティング

山とまちを自転車をつなぐために、さまざまな可能性と一緒に考えるミーティング。

安威川ダムファンづくり会は、茨木市北部地域の魅力発見や活性化を目指し、自転車によって山間地と市街地をつないでいくための取組みを推進しています。「サイクリストミーティング」では、ダムの完成に向けて、自転車でのアクセスや情報発信、安威川流域の楽しみ方などの可能性について、さまざまな分野の方々が集い、アイデアや意見交換を行う交流の場となっています。



学生主体のプログラム

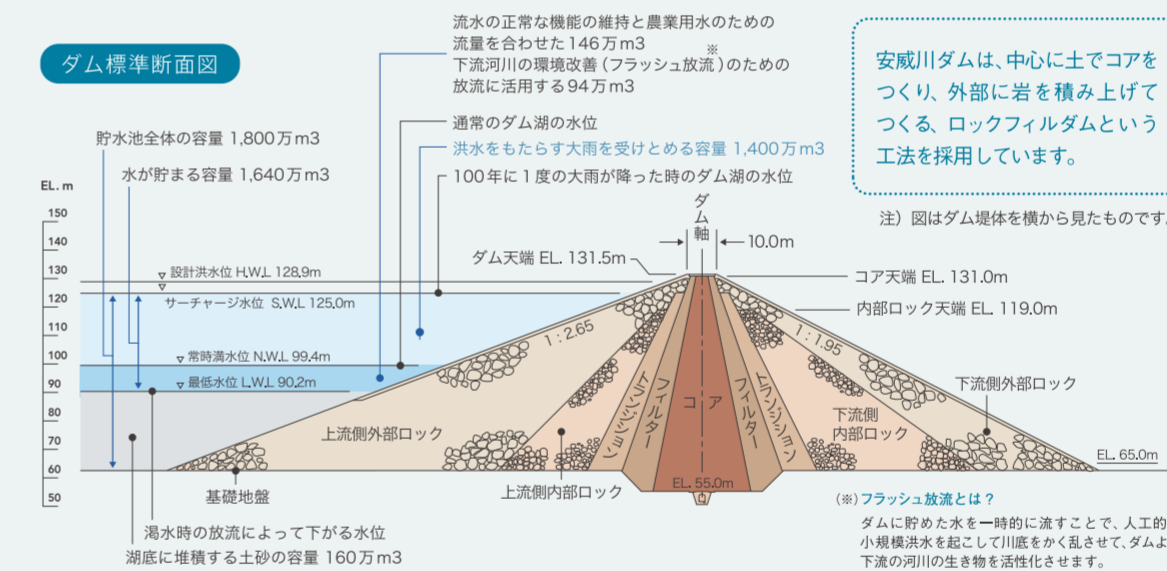
垣根を越えて集まった学生たちが、独自のプログラムでフェスを盛り上げました。

自然の木に触れて遊べるプログラム「木の子の山」では、大阪府立大学工業高等専門学校、関西大学、立命館大学、近畿大学の学生が中心となって企画運営を実施。さらに、彼らを中心とする 100 名近くの学生が、大学間の垣根を越えて集結し、会場を盛り上げました。これを機に、地元と密着し、茨木の新しい地域づくりに取組んでいく機運が高まっています。

Dam Topics

人にやさしく、環境にやさしいダム完成に向けて建設工事が進んでいます。

安威川ダムは、淀川水系安威川の大阪府茨木市北部に建設する治水ダムです。洪水調節、流水の正常な機能の維持、下流河川の環境改善を行います。



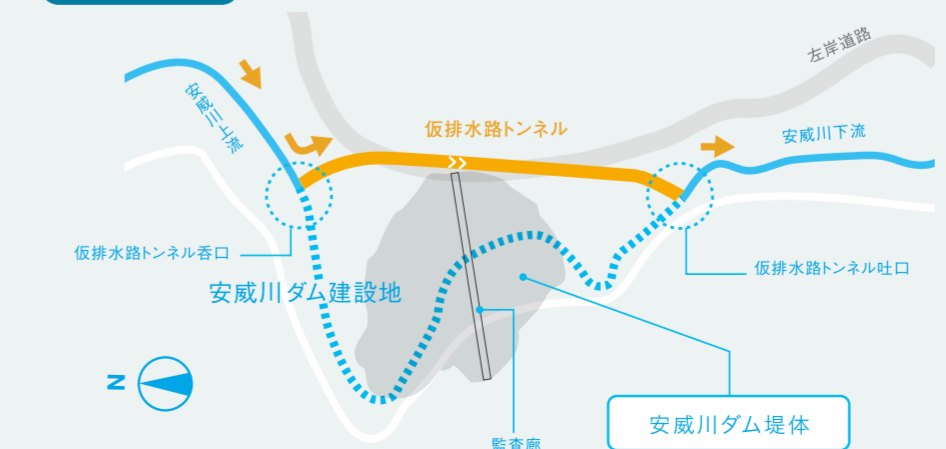
安威川ダム建設工事の進捗状況



ダム堤体の下部に設置される点検用通路が施工されています。

安威川ダムでは、安威川の流れを切り替える転流（平成 27 年 9 月実施）を機に本格的な掘削を開始し、現在、約 9 割の掘削が完了しています。また、掘削が完了した右岸側では、先行的に堤体の盛り立てを開始するとともに、監査廊（かんさろう）やグラウチング工（※）を施工中です。これから工事はますます本格化しますが、ダム完成まで安全には十分注意して施工を進めてまいります。

ダム建設現場周辺



「転流」とは?

ダムの施工が乾いた状態で行えるよう、河川をせき止めて、川の流れを一時的に切り替えること。川の流れを切り替えるためのトンネルを仮排水路トンネルといいます。



「監査廊」とは?

ダム堤体の下部に設置する点検用の地下通路。堤体及び基礎岩盤内の浸透水計測や地震観測等を行います。



※) グ라우チング: 基礎岩盤中の亀裂にセメントと水を混ぜたものを注入することで基礎岩盤中の浸透水を抑制します。